



新機能と更新情報

日付	変更内容
2021年2月24日	HDSセットアップツールをプロキシの背後で実行できるようになりました。詳細については、 HDSホストの構成ISOの作成 を参照してください。
2021年2月2日	HDSをマウントされたISOファイルなしで実行できるようになりました。詳細については、 (オプション) HDS構成後にISOをマウント解除する を参照してください。
2021年1月11日	HDSセットアップツールとプロキシに関する情報を HDSホストの構成ISOの作成 に追加しました。
2020年10月13日	「 インストールファイルのダウンロード 」が更新されました。
2020年10月8日	HDSホストの構成ISOの作成 と ノード構成の変更 をFedRAMP環境用のコマンドで更新しました。
2020年8月14日	ログインプロセスの変更により、 HDSホストの構成ISOの作成 および ノード構成の変更 を更新しました。
2020年8月5日	ログメッセージの変更により、 Hybrid Data Security 導入環境のテスト を更新しました。 ホストの最大数を削除するために 仮想ホストの要件 を更新しました。
2020年6月16日	「 ノードの削除 」が更新され、Control Hub UIの変更が反映されました。
2020年6月4日	「 HDSホストの構成ISOの作成 」が更新され、ユーザが設定する可能性がある詳細設定の変更が反映されました。
2020年5月29日	「 HDSホストの構成ISOの作成 」が更新され、SQL ServerデータベースでTLSも使用可能であることが記載されました。また、UIの変更が反映され、その他いくつかの点が明確化されました。

日付	変更内容
2020年5月5日	「 仮想ホストの要件 」が更新され、ESXi 6.5の新しい要件が記載されました。
2020年4月21日	「 外部接続の要件 」が更新され、新しい南北アメリカ CI ホストについて記載されました。
2020年4月1日	「 外部接続の要件 」が更新され、地域 CI ホストに関する情報が記載されました。
2020年2月20日	「 HDSホストの構成 ISO の作成 」が更新され、HDSセットアップツールの新しいオプションの[詳細設定 (Advanced Settings)]画面に関する情報が記載されました。
2020年2月4日	「 プロキシサーバの要件 」が更新されました。
2019年12月16日	ブロックされた外部 DNS 解決モードが動作するための要件を「 プロキシサーバの要件 」に明示しました。
2019年11月19日	次のセクションで、ブロックされた外部 DNS 解決モードに関する情報を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • プロキシサポート • プロキシ統合のための HDS ノードの構成 • ブロックされた外部 DNS 解決モードをオフにする
2019年11月8日	ノードのネットワーク設定は、後ではなく OVA を導入するときに設定できるようになりました。 それに伴い、次の項を更新しました。 <ul style="list-style-type: none"> • Hybrid Data Security 導入タスク フロー • HDS ホスト OVA のインストール • Hybrid Data Security VM のセットアップ <p>(注) OVA 導入時にネットワーク設定を設定するためのオプションは、ESXi 6.5 を使用してテストされています。このオプションは、以前のバージョンでは使用できない場合があります。</p>
2019年9月6日	データベースサーバの要件 に SQL Server 標準が追加されました。
2019年8月29日	WebSocket トラフィックを無視して適切に動作するように Squid プロキシを構成する方法に関するガイドラインを記載した付録 Hybrid Data Security の Squid プロキシの設定 を追加しました。

日付	変更内容
2019年8月20日	<p>Webex クラウドとの Hybrid Data Security ノード通信に対するプロキシサポートについて説明する項を追加および更新しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロキシサポート • プロキシサーバの要件 • プロキシ統合のための HDS ノードの構成 <p>既存の導入環境のプロキシサポートの内容だけを確認するには、ヘルプ記事「ハイブリッドデータセキュリティと Webex ビデオメッシュのプロキシサポート」を参照してください。</p>
2019年6月13日	<p>「トライアルから実稼働への移行タスクフロー」を更新して、組織がディレクトリ同期を使用している場合は、トライアルを開始する前に HdsTrialGroup グループオブジェクトを同期する必要があるという注記を追加しました。</p>
2019年3月6日	<ul style="list-style-type: none"> • 要件と前提条件を「環境の準備」の章に移動しました。 • 「Hybrid Data Security クラスターのセットアップ」の章に Hybrid Data Security 導入タスクフローの概要を追加しました。 <p>(次の章の手順に従って) トライアルを開始するまでは、ノードでサービスがアクティブ化されていないことを通知するアラームが生成されるという注記を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「トライアルの実施と実稼働への移行」の章に トライアルから実稼働への移行タスクフローを追加しました。
2019年2月28日	<ul style="list-style-type: none"> • OVA が作成するディスクのサイズを反映して、Hybrid Data Security ノードにする仮想ホストを準備する際に確保するローカルハードディスクの容量を 50 GB から 20 GB に修正しました。
2019年2月26日	<ul style="list-style-type: none"> • Hybrid Data Security ノードが、PostgreSQL データベースサーバとの暗号化された接続と、TLS 対応 Syslog サーバへの暗号化されたロギング接続をサポートするようになりました。「HDSホストの構成 ISO の作成」を更新して手順を追加しました。 • 「Hybrid Data Security ノード VM のインターネット接続要件」の表から、宛先 URL を削除しました。現在この表は、「Webex Teams サービスのネットワーク要件」の表「Webex Teams ハイブリッドサービスの追加 URL」にリストされている URL を参照するようになっています。

日付	変更内容
2019年1月24日	<ul style="list-style-type: none"> • Hybrid Data Security が、データベースとして Microsoft SQL Server をサポートするようになりました。SQL Server Always On (Always On フェールオーバー クラスタと Always On 可用性グループ) は、Hybrid Data Security で使用される JDBC ドライバでサポートされています。SQL Server を使用した導入に関する内容を追加しました。 <p>(注) Microsoft SQL Server サポートの対象は、Hybrid Data Security の新しい導入環境のみです。現在、既存の導入環境では PostgreSQL から Microsoft SQL Server へのデータの移行はサポートされていません。</p>
2018年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> • HDS ホストの構成 ISO の作成 および ノード構成の変更 の既存の docker hds インスタンスをクリーンアップするための準備手順を追加しました。 • 「HDS ホストの構成 ISO の作成」のキーアクセスレベルのステップを、インターフェイスに合わせて更新しました。
2018年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> • 「Hybrid Data Security の前提条件への対応」のファイアウォール接続情報を、ノードの要件と ISO 構成マシンの要件に分けました。
2018年7月31日	<ul style="list-style-type: none"> • 「Hybrid Data Security の前提条件への対応」に、ポート 22 (SSH アクセス) と、NAT およびファイアウォール接続に関する情報を追加しました。
2018年5月21日	<p>Cisco Spark のリブランディングを反映して、次のように用語を変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Spark Hybrid Data Security は Cisco Webex ハイブリッドデータセキュリティに変更されています。 • Cisco Spark アプリは Cisco Webex アプリに変更されています。 • Cisco Collaboration Cloud は Cisco Webex クラウドに変更されています。

日付	変更内容
2018年4月11日	<ul style="list-style-type: none"> • 「ディザスタリカバリのためのスタンバイ データ センター」を追加しました。 • 「Hybrid Data Security の前提条件への対応」を更新して、バックアップ環境は別のデータセンター内に配置する必要があることを明記しました。 • 「ディザスタリカバリ後のクラスタの再構築」が更新されました。
2018年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> • 「HDS ホストの構成 ISO の作成」および「ノード構成の変更」に、サービス アカウント パスワードの9ヶ月の有効期間に関する情報と、HDS セットアップ ツールを使用してサービス アカウント パスワードをリセットする手順を追加しました。
2018年2月15日	<ul style="list-style-type: none"> • 表「X.509 証明書の要件」に、証明書をワイルドカード証明書にすることはできないこと、KMSはx.509v3 SAN フィールドで定義されているドメインではなく、CN ドメインを使用することを明記しました。
2018年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> • 付録「HDS ノードとクラウド間のトラフィック」を追加しました。 • 「Hybrid Data Security に関する既知の問題」から解決済みの問題を削除しました。 • 「Hybrid Data Security の前提条件への対応」のHDS ノードのTCP 接続要件のリストで、<code>index.docker.io</code>を<code>*.docker.io</code>に変更し、<code>*.cloudfront.net</code>を追加しました。 • 「HDS ホストの構成 ISO の作成」を更新して、データベース ホストと Syslogd サーバをDNSで解決できない場合、IPアドレスを使用して構成するよう説明しました。
2017年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> • HdsTrialGroup のディレクトリ同期について明確にしました。 • VM ノードにマウントするための ISO 構成ファイルのアップロード手順を修正しました。
2017年8月18日	初版

